

原著

2 歳児相談における事前問診の語彙チェックリスト作成の試み

- 文法カテゴリーによる分析：動詞 -

塩見 将志¹⁾，笠井新一郎²⁾，岩本 さき³⁾，苅田 知則²⁾，長嶋比奈美²⁾，
稲田 勤²⁾，間野 幸代²⁾，石川 裕治²⁾，山田 弘幸⁴⁾

Production of a vocabulary checklist for inquiry prior to
counseling for children aged 2 years

- A Structure and Increase of Verbs -

Masashi Shiomi¹⁾，Shinichiro Kasai²⁾，Saki Iwamoto³⁾，Tomonori Karita²⁾，Hinami Nagashima²⁾，
Tsutomu Inada²⁾，Sachiyo Mano²⁾，Yuji Ishikawa²⁾，Hiroyuki Yamada⁴⁾

要 旨

今回，私たちは，2 歳児相談において，言語発達を正確に評価し，言語発達障害を有する子どもや「気になる子」を早期発見・早期療育するための語彙チェックリストの作成を目的に保育所に通う 2 歳前後の幼児を対象とした表出語彙に関する事前調査を実施した．なお，本稿では，その中でも特に動詞に焦点を当てて検討を加えた．調査で用いたチェックリストの項目は，大久保（1984）が作成した 2 歳児の語彙リストと三省堂「こどもことば絵じてん」を参考に作成した．本稿で取り扱う動詞は 452 の全語意中，123 語であった．本調査における動詞の特徴として，2 歳 0 ヶ月時で通過する語は 123 語中，12% であり，2 歳 6 ヶ月時で通過する語は 60% となった．このことから，動詞は 2 歳 0 ヶ月から 2 歳 6 ヶ月の間に飛躍的に獲得される可能性が示唆された．
キーワード：動詞，2 歳児，言語発達

Abstract

To produce a vocabulary checklist for the accurate evaluation of speech development and the early detection・treatment of children with speech development disorder and those who require attention in counseling for children

1) もみのき病院 リハビリテーション科

Department of Rehabilitation, Mominoki Hospital

2) 高知リハビリテーション学院 言語療法学科

Department of Speech, Language and Hearing Pathology, Kochi Rehabilitation Institute

3) 回生病院 リハビリテーション科 言語療法室

Department of Rehabilitation, Kaisei Hospital

4) 九州保健福祉大学 保健科学部 言語聴覚療法学科

Language Hearing Treatment Subject of Study, Department of Health and Science, Kyushu University of Health and Welfare

aged 2 years, we carried out a survey of expressed vocabulary in children aged about 2 years who attend nursery school prior to this counseling. A vocabulary checklist questionnaire was made to research a quantity and variation of vocabulary that infants between 23 and 35 months without speech and language retardation, and 161 parents participated in this research, whose child belonged to a kindergarten in Sakaide. This study focused on verbs in the vocabulary. The items used in the survey were decided using a vocabulary checklist for children aged 2 years produced by Okubo (1984) and “Japanese Illustrated Dictionary for Little Children” (Sanseido) as references. Of all 452 words surveyed, 123 verbs were analyzed in this study. And of the 123 verbs, 12% had been acquired in children aged 24 month, and 60% had been acquired in children aged 30 months. These results suggest marked acquisition of verbs between the age of 24 and 30 months.

Key words: verbs, children aged 2 years, speech development

はじめに

2 歳という年齢は、1 歳代と比べ語彙数が 200～300 語と急激に増加するとともに、実際に使用できる語彙が安定してくる時期でもある。また、研究者によって分類は様々であるが、名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・感動詞など、それぞれの品詞において、最低 1 つでも表出される語がみられるという基準においては、品詞がすべて出そろった時期だともいわれている¹⁾。これらのことを考えると 2 歳という年齢は、正常な語彙発達において大きな変化が生じる時期であるといってもよいだろう。

なお、様々ある品詞の中での動詞の位置づけについて小椋²⁾は、日本語獲得児の特徴として、総語彙数としては、動詞よりも名詞が早くに獲得される傾向があり名詞が優位であるが、アメリカに比べると使用語彙の中で動詞の占める割合が高いことを示している。

また、子どもに対する日常的な発話や声かけなど、母親などからの言語入力を調べてみると、日本語獲得児の場合、名詞よりも動詞の方が多く、動詞優位であることが明らかになっている。

これは、日本語の言語構造と併せて考えると興味深い。日本語の場合、主語・目的語の名詞句は省略されることがあるが、動詞・述語は必要不可欠である²⁾。また、子どもの言語訓練場面においても、2 語連鎖や 2 語文だった子どもが、3 語以上の多語文を用いて他者とのコミュニケーションする段階において、先程述べた日本語の言語構造上、動詞・述

語を獲得していく過程を目の当たりにすることができる。したがって、日本語圏における言語発達を理解するには、動詞の発達を理解しておくことは必要不可欠であろう。

I. 目的

私たちが行った一連の研究の目的は、2 歳児相談において、言語発達を正確に評価し、言語発達障害を有する子どもや「気になる子」を早期発見・早期療育するための語彙チェックリストを作成することにある。

本稿においては、事前調査として行った、保育所における質問紙調査から、語彙チェックリストの項目を検討するとともに、2 歳代の子どもの動詞の発達を概観した。

II. 調査方法

調査は、香川県坂出市内にある 12 の全保育所に所属する 1 歳 11 ヶ月から 2 歳 11 ヶ月の子どもの保護者 161 名を対象に実施した。

調査で用いたチェックリストの項目は、大久保³⁾が作成した 2 歳児の語彙リストと、三省堂「こどもことば絵じてん」⁴⁾を作成した。チェックリストに含まれる全語彙数は、452 語で、品詞としては、名詞・代名詞・抽象語・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・感動詞などを導入した。

調査は、2000 年 3 月初旬に実施した。また、公的機関である保健センターからの依頼という形を取

たため、調査用紙の回収率は100%であった。

Ⅲ．結果

本稿では、2歳0ヶ月児と2歳6ヶ月児を対象として、それぞれの段階で、60%以上の子どもが表出していると回答された項目を「通過した語」とする。通常、標準化を目指した検査では、統計処理を用いて標準偏差や評価点から有意に精神発達遅滞が疑われる値を算出する方法が用いられる。しかし、荻田らも述べているとおり⁵⁾、調査協力者の人数や語彙

チェックリストによる問診という方法を考えると、厳密な境界値を出すことは、現時点では早計であると判断した。したがって、本稿では分析に際し、あえて統計処理は行わず、津守式乳幼児精神発達検査⁶⁾や遠城寺式乳幼児発達検査⁷⁾の指標に習い、2歳0ヶ月+6ヶ月を正常値の幅として想定した。

2歳0ヶ月児の60%以上が表出していると回答のあった動詞（以下、通過した動詞）としては「ひらく・いく・おいで・かく・きる・ころぶ・すてる・すわる・たべる・ちょうだい・ぬぐ・ねる・のむ・はく・はしる」の15語があった（表1参照）。

表1 2歳0ヶ月児の60%以上が通過した動詞

ひらく	いく	おいで
かく（書く）	きる（着る）	ころぶ
すてる	すわる	たべる
ちょうだい	ぬぐ	ねる
のむ	はく（履く）	はしる
計 15語		

次に、2歳6ヶ月児の60%以上が通過した動詞は「いれる・みえる・やぶる・ひっぱる」などであり、2歳0ヶ月児がすでに60%以上が通過した動詞をあわせて76語あった（表2参照）。

ここで、それぞれの月齢における動詞の出現傾向

表2 2歳6ヶ月児の60%以上が通過した動詞

ひらく	あける	あげる	いく	いらっしやい
いれる	<u>おいで</u>	おきる	おく（置く）	おこる
おどる	かう（買う）	かえる	おりる	<u>かく（書く）</u>
かぶる	きく	<u>きる（着る）</u>	きる（切る）	ください
くる	こぼす	<u>ころぶ</u>	こわす	しなさい
しまう	しめる	<u>すてる</u>	すべる	すむ（済む）
<u>すわる</u>	なおす	たく	だす	たたく
たつ	<u>たべる</u>	ちがう	<u>ちょうだい</u>	つける
でかける	できる	でる	とぶ（飛ぶ）	とぶ（跳ぶ）
とめる	とる	なおる	なく	なげる
なる	にぎる	にげる	<u>ぬぐ</u>	ぬる
<u>ねる</u>	のぼる	<u>のむ</u>	はいる	<u>はく（履く）</u>
はじまる	<u>はしる</u>	はなす	ひっぱる	ふる（降る）
みえる	みる	もつ	もらう	やぶる
やぶれる	やめる	やる	よぶ	よむ
わらう				
計 76語				

（下線は2歳0ヶ月時ですすでに60%以上が通過となった動詞）

をさらに詳細に分析するために、Nelson⁸⁾の分類を用いて検討を加えた。Nelson の分類においては、動詞は「動作語」として分類されており、「動作を記述したり、要求したり、あるいは動作を伴う語、あるいは注意を表現したり、注意を要求される語」と定義されている。

具体的には、記述・要求・注意という 3 つのカテゴリーに分類され、記述カテゴリーの例としては「行く・バイバイ」など、要求としては「立ちなさい・出なさい」など、注意としては「見なさい・おい！」などが挙げられている。

これらのカテゴリーに基づいて、今回用いたチェックリストの語彙の数量化を試みた結果が、表 3 である。記述は、2 歳 0 ヶ月児で 13 語、2 歳 6 ヶ月児で 71 語が通過、要求は、2 歳 0 ヶ月児で 2 語、2 歳 6 ヶ月児で 5 語が通過した。注意は、2 歳 0 ヶ月児および 2 歳 6 ヶ月児とも通過した語はみられなかった。

この結果から、記述に関する語が多く通過している事がわかる。これは、用意していたチェックリストの特性として、記述語が多かった可能性を示している。したがって、今後は、他の 2 つのカテゴリーに関してもリストの中に入れていく必要があると思われる。しかし、こうしたチェックリストの特性を

表 3 2 歳 0 ヶ月児と 2 歳 6 ヶ月児の比較

	記述	要求	注意
2 歳 0 ヶ月児で通過した動詞	13	2	0
2 歳 6 ヶ月児で通過した動詞	71	5	0

表 4 2 歳 10・11 ヶ月児でも 60% 未満しか通過しない動詞

記述	丁寧語・敬語	おっしゃる		
	心的活動を表す語	いじめる	おもう	かんがえる
	2 つ以上の動詞の複合語	きかえる	とりかえる	
	その他	いじる	こぐ	ちらかす
要求	丁寧語・敬語	ください	しなさい	
注意	丁寧語・敬語	ごらん		

除いても、記述カテゴリーの増加は注目に値するものと思われる。

次に、2 歳 10・11 ヶ月児でも 60% 未満しか表出しないと解答のあった動詞（以下、通過しなかった動詞）が、12 語みられた（表 4 参照）。そこで、それらを同じく Nelson の分類を参考に考察を加えた。

記述カテゴリーに含まれる内容として、丁寧語・敬語としての「おっしゃる」、心的活動を表す語として「いじめる・おもう・かんがえる」、2 つ以上の動詞の複合語として「きかえる・とりかえる」、その他解釈の難しい語として「いじる・こぐ・ちらかす」を分類した。また、要求カテゴリーとしては、丁寧語・敬語としての「ください・しなさい」が、注意カテゴリーとしては、やはり丁寧語・敬語としての「ごらん」という分類が考えられた。

IV. 考察

本調査における動詞の特徴として、2 歳 0 ヶ月児で通過する語は 123 語中、約 12% であり、2 歳 6 ヶ月児で通過する語は約 60% になる。このことから、動詞は 2 歳 0 ヶ月から 2 歳 6 ヶ月の間に飛躍的に獲得される可能性が示唆された。また、2 歳 0 ヶ月児の 60% が通過する語をみると「すわる・ねる・たべる・のむ・きる・はく」等、日常的習慣に関する語が中心となっている。

それに対して、2 歳 6 ヶ月児では「いれる・みえる・やぶる・ひっぱる」など、日常生活に密着した語ではあるが、動作の記述に関する語が大幅に増加しており、記述する動作の内容や種類も幅広くなることが伺われた。

このように、2歳以降に表出可能な動詞が飛躍的に増加する要因としては、2歳以前に名詞などの語彙数が増加することにより語が連続して出現することが多くなること、さらに2歳半ばになると接続詞を使って文と文をつなげることが可能になること、が考えられる。また、2歳以前に「これ、なーに？」といった質問により母親などとのやりとりを楽しむ場面が認められる「第1質問期」も2歳以降に語彙数を飛躍的に増加させる基礎となっているように思われる。

ところで本研究は、「2歳児相談」において、何らかの言語発達障害を有する子どもや「気になる子」を早期発見・早期療育するチェックリストを作成することを目的としたものである。ここでいう「気になる子」の中には将来的に学習障害や注意欠陥多動性障害と診断される子どもも含まれるが、例えば、始語の時期や語彙数の増え方もさして遅くない「学習障害」は早期発見が困難な言語障害の1つに挙げられる。しかし、大石⁹⁾が「学習障害」の言語発達について「正常発達例と比較して、人とのコミュニケーション維持に必要な指示語、存在語、動作語の獲得が遅い」と述べていることから、2歳児の動詞獲得の様相をとらえた本稿の結果は「学習障害」などの早期発見の一助に成り得るのではないだろうか。

なお、2歳10・11ヶ月児でも通過しない語としては「おっしゃる・ください・しなさい・ごらん」などの丁寧語や「おもう・かんがえる」といった心的活動を表す語が挙げられており、2歳0ヶ月児や2歳6ヶ月児で60%以上が通過した語に多く含まれた日常生活に密着した語に比べると、使用頻度も低く抽象度が高い語であるといえる。したがって、こうした使用頻度が低く抽象度の高い語に関しては、2歳児の語彙発達を評価する語彙としては適さないことが考えられた。

今後の課題としては、2歳0ヶ月から2歳6ヶ月の間に急激に動詞が獲得されることや、日本語のコミュニケーション構造が、主語・目的語は省略しても、動詞・述語を必要とするなど、動詞重視であることなどを考えると、2歳児相談のスクリーニング

として、語彙チェックリストを用いる場合、今回のリストに加え、さらにNelson⁸⁾の分類でいう記述だけではなく、要求や注意に関する動詞の種類を増やすとともに自由記入欄を作成し、より詳細な検討を加え現在の言語環境に即したものを作成する必要があると思われる。

また、今回、使用頻度が低く、抽象度が高かった動詞に関しては、チェックリストから削除することを考えているが、2歳児にとっては表出困難な語も、最終的には獲得されることを考えると、どのようにして日常生活ではなじみの少ないこうした語を獲得していくのか、また、そのためにはどのような援助・指導を必要とするのかについて今後検討の余地があるだろう。

引用文献

- 1) 矢野喜夫, 落合正行: コミュニケーションの発達, 心身理学ライブラリー5 発達心理学への招待 第9章 - 人間発達の全体像を探る -, p179-206, サイエンス社, 東京, 1991.
- 2) 小椋たみ子: 語彙獲得の日米比較, ことばの獲得(桐谷滋編)第5章, p143-194, ミネルヴァ書房, 東京, 1999.
- 3) 大久保愛: 幼児語の研究, 初版, あゆみ出版, 1984.
- 4) 金田一春彦(監修): 三省堂 こどもことば絵じてん, 三省堂, 東京, 1996.
- 5) 苅田知則, 笠井新一郎, 岩本さき, 長嶋比奈美, 稲田 勤, 塩見将志, 間野幸代, 石川裕治, 山田弘幸: 2歳児相談における事前問診の語彙チェックリスト作成の試み - 文法カテゴリーによる分析: 名詞 -, 学校法人高知学園高知リハビリテーション学院紀要, 第2巻, p33-39, 2001.
- 6) 津守 真, 稲毛教子: 増補 乳幼児精神発達診断法 0才~3才まで, 大日本図書株式会社, 東京, 1997.
- 7) 遠城寺宗徳, 合屋長英, 黒川 徹, 名和顕子, 南部由美子, 篠原しのぶ, 梁井 昇, 梁井迪子:

遠城寺式乳幼児分析的発達検査法，慶應義塾大学出版株式会社，東京，1977.

- 8) Nelson, K. : Structure and strategy in learning to talk. Monographs of the society for research in child development. 38, No.149, 1973.
- 9) 大石敬子：学習障害の言語発達と指導，発達障害研究，第13巻 3号，176-183，1991.

参考文献

- 1) Genter, D. : Why nouns are learned before verbs : Linguistic relativity versus natural partitioning. In S. A. Kuczaj (Ed.), Language development, Vo. 12. Language, thought, and culture. Hillsdale, NJ : Erlbaum. pp.301-334, 1982.
- 2) 大貝茂他：言語発達障害，初版，建帛社，2000.
- 3) 小椋たみ子，山下由紀恵，坪田みのり：母親の育児語と子どもの言語発達 認知発達，神戸大学発達科学部研究紀要，5（1），1 - 14，1997.
- 4) 小椋たみ子，山下由紀恵，村瀬俊樹：初期言語発達インベントリー信頼性の検討，島根大学教育学部紀要，38，17 - 31，1991.
- 5) 小椋たみ子，山下由紀恵，村瀬俊樹：初期言語発達インベントリーの妥当性及びチェックリストの検討，神戸大学発達科学部研究紀要，5（2），261 - 276，1998.
- 6) 大久保愛：幼児語の発達，9版，東京堂出版，1980.